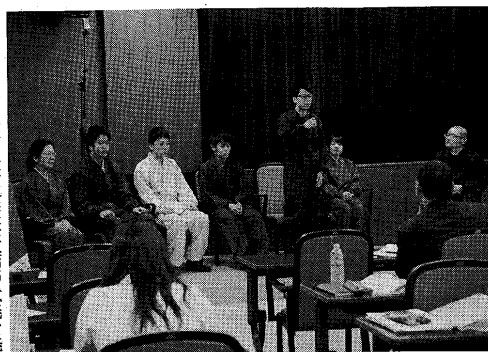


14人の臨床宗教師誕生

修了生以外に3人認定

龍谷大

龍谷大大学院実践真宗学研究科は21日、今年度の臨床宗教師研修を終えるのに伴い、京都市下京区の龍谷大大学院でシンポジウムを開いた。研修生が実習を通じた学び



研修生が実習を通じた学びを発表した

を発表し、修了証を受け取った。今年度は3人の認定者を含め14人の臨床宗教師が誕生した。

龍谷大では、昨年度から研修を開始。今年度から浄土真宗以外の僧侶や神父などにも門戸を広げ、浄土宗僧侶が受講した。

被災地・宮城県や僧侶が常駐する緩和ケア施設

を公表し、修了証を受け取った。今年度は3人の認定者を含め14人の臨床宗教師が誕生した。

龍谷大では、昨年度から研修を開始。今年度から浄土真宗以外の僧侶や神父などにも門戸を広げ、浄土宗僧侶が受講した。

被災地・宮城県や僧侶が常駐する緩和ケア施設

「あそかビハラ病院、特別養護老人ホーム「ビハラ本願寺」などで約140時間の実習を行っている。

臨床宗教師誕生の経緯を解説した研修主任の鍋島直樹教授が、臨床宗教師に求められる「リテラチャー」の原点を示す言葉として、『涅槃経』梵行品の中にある「月愛三昧」を紹介。大悲の光を受けた宗教者が共にいることが、めくもりになると教えている」と語った。

1期修了生で特別養護老人ホーム「常清の里」(大阪府茨木市)に週1

回勤める柱本博さんが活動を開始した。後、研修生6人が発表。実践真宗学研究科3年の黒瀬英世さんは、被災地での実習で、津波で息子を亡くした被災者にかける言葉が見つからず、これまでいかに傲慢な姿勢で人に接していたかに気づいた」と振り返った。

東北で臨床宗教師の養成に携わる谷山洋三准教授は、失敗した経験を通して「客観的に自分ができることは何かという視点で、現場では求められるとアドバイスした。また、東北大での養成講座が始まった12年4月から、臨床宗教師について5日に1回のペースでメディアに取り上げられていくとして、社会的ニーズがあったと分析。期待されていることを自覚してほしい」と話した。

修了生以外にも、研修で指導に当たった花岡尚樹氏(あそかビハラ病院)、山本成樹氏(同、三菱京都病院)、杉岡孝紀氏(龍谷大教授)がビハラ僧としての実績などが評価され、認定証が授与された。1期生11人と合わせて、これまで計25人が臨床宗教師となった。